

災害時における緊急輸送道路ネットワークの確保

— 橋梁の耐震補強 —

【背景】

- 阪神・淡路大震災では、阪神高速道路の倒壊をはじめ道路網が寸断され、救急救命活動にも支障をきたした。
- 東日本大震災では、県管理道路においても橋梁42箇所を含む133箇所で行き止まりとなり、社会経済活動や県民生活に大きな影響があった。

【事業概要】

- 茨城県では、平成24年度に「復興みちづくりアクションプラン」を策定し、以下のような補強を行い、緊急輸送道路の耐震化を集中的に実施した。
- ・橋脚が壊れないようにする「橋脚巻き立て補強」
 - ・地震動により橋桁が落ちないようにする「落橋防止構造」

【地震による被災の状況】



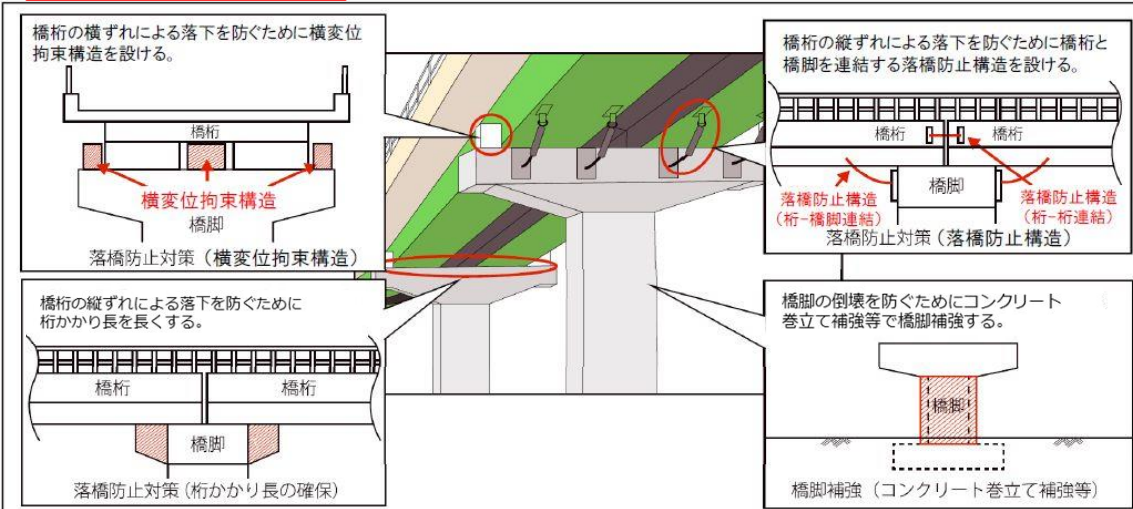
東日本大震災における県内橋梁の損傷
(損傷により約4か月通行止め)



道路が壊れると
救助活動もできない

橋梁耐震化の実施

平成26、27年の2力年で約50橋の耐震補強を実施



落橋防止構造の設置例



地震災害に強い道路ネットワークを確保



施工中の様子

コンクリート巻立て補強の実施例